



信州青木村ふるさと景観100選

青木夏祭り 魂の演奏

AOKI 青木村 議会だより

第74号

令和元年 8月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

青木村議会へアクセス E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp

青木村 消防ポンプ操法大会

主な 記事

青木村議会だより
第74号

令和元年 第2回 臨時議会 2

令和元年 第2回 定例会
..... 3～4

一般質問 5～12

議会の動き 13

議会日誌・住民の声 14



小学校 音楽会

令和元年 第2回 臨時議会が開催されました

議長就任挨拶



宮下 壽章

青木村議会では、1期4年中申し合わせにより、2年毎に議会構成の改選が行われることになっております。5月7日に臨時議会が開催され、正副議長・各委員会の改選が行われました。

私は、令和初の議長として就任することになりましたが、責任の重さを痛感しております。

これまでの議員活動経験を基に開かれた議会を目指して取り組んで参りたい所存であります。

議会は、村民の付託を受けた代表として、村民側に立ち、村民生活の向上に使命と責任を果たす義務があります。先輩議員の方々が築き上げた伝統を守り、議会基本条例に基づき、さらに推進し、向上を図ります。そのため、村民の皆様よりアンケートをお願いし、議会改革を進めると共に、住みよい村づくりと開かれた議会を目指して議員間で討議して参ります。

議員のなり手不足と言われていますが、これからの

議会のあり方について検討し、議会の活性化と円滑な議会運営に務めるため、村民の皆様のご意見や提言に対し謙虚に耳を傾け、皆様と共に歩む議会にして参ります。

二元代表制の一翼を担う議会として、村長・執行部とは緊張感を持ちながら是非々の姿勢をもって、良い村政と村づくりを目指し、互いに様々な意見を出し合い、課題に向き合うことが重要と考えています。

議会では、特別委員会を設置して進めてきました道の駅周辺の公園、直売所等の工事も、一部取り付け道路工事を残してほぼ完成に至りました。皆様にはご不便をおかけしましたが、今後、村の観光や農産物、遊び場などの拠点として、大勢の方々が集える場所でありますようお願いいたします。

多くの村民最大の関心事であり、願いでもあります国道143号青木峠新トンネルにつ

いて、議会では、上田市・松本市・安曇野市・筑北村の5市村の議会による議員連盟を結成し、早期実現に向けて取り組んでいきます。昨年には、大まかなルート帯が発表され、本年6月4日には、正式となるルートが発表されました。弘法の杭口から3kmと1kmの2トンネル計4kmの決定となりました。本年より地質調査と設計が行われ、その後、掘削工事となります。完成見込みは未定ですが、人の交流、物流、観光、医療、災害時の対応等、青木村にとっても大きな進展が見込まれることから、早期実現に向けて一層の取り組みをして参ります。

また、年々減少傾向による人口問題の解決策や、少子高齢化による対策など多くの課題が山積しております。議会として、様々な課題を抱える青木村を維持していくために重要な責務があることを認識し、村長・執行部と議会が力を合わせ住みよい村づくりに向け日々邁進して参ります。

今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。就任の挨拶といたします。

5月7日、令和元年第2回臨時議会が招集され、議長・副議長・各常任委員会委員等が次のとおり選任されました。
(敬称略)

◇正副議長

議長 宮下 壽章
副議長 金井とも子

◇常任委員会

総務建設産業委員会

委員長 堀内 富治
副委員長 松澤 正登
委員 宮入 隆通
〃 宮下 壽章
〃 沓掛 計三

社会文教委員会

委員長 居鶴 貞美
副委員長 小林 和雄
委員 坂井 弘
〃 金井とも子
〃 山本 悟

◇議会運営委員会

委員長 松澤 正登
副委員長 居鶴 貞美
委員 坂井 弘
〃 金井とも子
〃 堀内 富治

◇一部事務組合

青木村及び
上田市共有財産組合

松澤 正登
沓掛 計三
居鶴 貞美
小林 和雄

上田地域広域連合

金井とも子
宮下 壽章

◇消防委員会

委員 宮入 隆通
〃 松澤 正登
〃 宮下 壽章
〃 沓掛 計三
〃 堀内 富治

◇議会報編集委員会

委員長 坂井 弘
副委員長 宮入 隆通
委員 松澤 正登
〃 金井とも子
〃 沓掛 計三
〃 居鶴 貞美

令和元年

第2回定例会

令和元年第2回定例会は、去る6月11日に招集され、19日までの会期で行われました。提出された案件は報告事項3件、条例関係3件、令和元年度一般会計補正予算、令和元年度別荘事業特別会計補正予算、請願2件で慎重審議の結果、「青木村火入れに関する条例」については、総務建設産業委員会に付託され、継続審査となりました。この案件を除き、原案のとおり可決承認され、請願2件も採択されました。一般質問では、8人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ（要旨）

今年は、降雪量が少なく水不足が心配されましたが、無事田植えも終わり、とりあえずは安堵しております。

本日、令和元年第2回青木村議会6月定例会を招集しましたところ全議員の出席をいただきましたこと、また日頃より村政の運営にご理解とご支援をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

5月7日付「官庁速報」に総務省局長へのインタビュー記事、人口減少時代の中での地方自治体が直面する行政課題についての展望が掲載されていました。

〈北崎 秀一 自治局長〉令和の時代にも、基礎自治体を何とし

ても持続可能な形で維持しなければならぬ。住民サービスを直接担う市町村の役割がますます重要になる。住民の生活圏域の拡大に対応するため、市町村同士の協力、連携が必要になる。〈林崎 理 自治財政局長〉超高齢・人口減少社会の到来で、「地方消滅」の危機が取り沙汰される中、内容が充実した予算をいかにつくれるかが死活問題になる。人口減少は、水道や下水道など、自治体が運営する地方公営企業の経営にも大きな影響を与える。

このことでもあります。心して拝読しました。

国道143号青木峠新トンネルは、今年度「青木峠バイパス」

として、国から新規事業採択されました。議員の皆様には、他に先駆けて議員連盟を結成し、関係市町村にもその設立を働きかけていただくなど、積極的に力強い要望活動をしていただきました。県より事業着手した工区として位置付けられたということは、事業推進上大変大きな一歩であり、記念すべき慶事でもあります。

去る5月30日、坑口の地元となる入田沢区で説明会が開催されました。この道路を上田・松本・安曇野間を最短で結ぶ新たな東西基幹軸にして、青木村の立地ポテンシャルを高め、企業誘致や移住・定住の促進、地域経済の活性化、観光振興、村民生活の安全・安心の確保につなげていけるよう努めてまいります。

地元といたしましては、県の各種調査や残土処理地の選定に積極的に協力していくと共に、事業中の当郷・殿戸間の歩道整備促進など、環境の保全にも努めていただくよう県へ要請してまいります。

この度、五島慶太翁顕彰活動のベースとなる「五島慶太未来創造館（仮称）整備基本計画（案）」を策定しました。青木村の未来を担う人材育成の拠点施設として、村民の皆様、東急グループなど関係の皆様からの意

見収集などを行いながら、来年4月18日、慶太翁誕生日のオープンを目指してまいります。

5月31日の出納閉鎖をもって、平成30年度の出納が終了となりました。決算の状況はこれから整理してまいります。当初予算歳入の中で、基金を取り崩して3億4千万円余を各事業に充てることとしておりませんが、それを行うことなく出納を閉鎖することができ、昨年度も大型事業を実施する中ではありましたが、健全財政を堅持することができました。



竣工した中学校教室の空調設備

報 告

報告第1号
専決処分の承認を求めること
について

青木村税条例及び国民健康保険税条例の一部改正と、平成30年度補正予算7件です。

補正予算のうち、平成30年度一般会計補正予算第7号は、歳入歳出にそれぞれ6981万4千円を減額し、総額を28億7395万円とするもので、減額の主な理由は、総務費の土地購入費1000万円の減、地方創生プロジェクト事業費の事業内容変更に伴う1050万円の減、民生費の障害者医療給付費等の実績によるもので700万円の減、し尿処理の実績による負担金488万円の減、農林水産業費の森林整備事業の実績から228万円の減が主なものです。なお、五島慶太翁顕彰事業基金積立金として209万円の増、情報通信施設等整備基金積立金として200万円増額し、それぞれ積立を行いました。

その他平成30年度特別会計（国民健康保険、簡易水道、別荘事業、下水道事業、

介護保険、後期高齢者医療）に関する専決処分は、主には事業実績等による係数の整理に伴う補正でした。

報告第2号

平成30年度青木村土地開発公社
事業報告について

平成30年度末の未処分利益剰余金は8092万1328円となり、翌年度繰越利益剰余金として処理されました。

報告第3号

平成30年度繰越明許費繰越計算
書の報告について（青木村一般会計）

義民太鼓こまゆみ会国際交流事業、（国補）社会資本整備事業村道国道北2号線改良工事、（村単）田沢温泉バイパス道路新設工事、（国補）学校施設空調設備設置工事が令和元年度までかかるため繰越した事業費及び財源の計算書で、議会の承認を求めるものです。事業費は1億3022万6千円です。

議 案

議案第1号

青木村森林環境譲与税基金条例
について

国からの森林環境譲与税を財源として、村内の森林整備、人材育成・担い手確保などの施策の資金に充てるため、基金条例を制定するものです。

議案第2号

青木村火入れに関する条例につ
いて

林野火災の防止を図るため、森林法に基づき村内の原野、田畑、荒野などで雑草、堆積物等を面的に焼却する火入れに関し許可の手続きや必要な事項を定めるものです。

総務建設産業委員会に付託され、審議を深める必要があると判断し、閉会中の継続審査となりました。

議案第3号

青木村介護保険条例の一部を改
正する条例について

介護保険法施行令の改正に伴い、条例改正をするもので、本年10月に予定されている消費税率の増税に伴う増収分を財源として、第

1号被保険者に対する介護保険料の軽減措置を強化するものです。

議案第4号

令和元年度青木村一般会計補正
予算について

歳入歳出に4683万円を追加し、総額を28億683万円とするもので、歳入では国庫補助金（プレミアム付商品券事業、地方創生推進交付金）1212万8千円の増、県補助金（元気づくり支援金、信州農業生産力強化対策事業）822万6千円の増、前年度繰越金1165万6千円の増、義民太鼓保存会こまゆみ会アイルランド国際交流寄附金200万円の増、五島慶太翁顕彰事業寄附金110万円の増が主なものです。歳出では、総務企画課関係でコミュニティ備品整備256万円の増、災害時用エアドームテント購入134万円の増、住民福祉課関係ではプレミアム付商品券事業費で666万3千円の増、タチアカネ首都圏発信PR事業441万円の増、建設農林課関係では、そば乾燥調整施設整備451万3千円の増、入奈良本区向沖水路改修費400万円の増、青

木新トンネル建設促進村民会議負担金100万円の増、商工観光移住課関係では五島慶太翁顕彰事業272万円の増などが主なものです。

議案第5号

令和元年度青木村別荘事業特別
会計補正予算について

歳入歳出に150万円を追加し、総額を1891万7千円とするもので、歳入は前年度繰越金の増で、歳出は工事請負費（村単工事）110万円の増と、施設管理機器購入40万円の増です。

請 願

請願第1号

日米地位協定の抜本的見直しならびに米軍基地負担の軽減を求める請願について

賛成多数により採択されました。

請願第2号

沖縄の民意を尊重し辺野古新基地建設工事を中断して再検討することを求める請願について

賛成多数により採択されました。

第2回 青木村議会定例会 一般質問



沓掛 計三 議員

- 1、国道143号青木峠新トンネル事業着手について
- 2、幼保無償化について



国道143号改良工事 国への要請活動

- 1、国道143号青木峠新トンネル事業着手について

(問) 本年度1億2000万円の予算が付き事業に着手する。国・県からは事業期間は示されていないが、2027年の長野国体まではと願う。早期開通に向けての考えは。

村長答弁

トンネルの長さは約4km。予算との関係もあるが、両方から着手できるので、一つの目標として、こうした発言ができるか精査しながら、国・県へ要望していきたい。

(問) 村は、本事業に対し、どのように協力していくのか、また、職員体制については。

村長答弁

関係者への用地交渉や残土処理など、また、事業に対する意見や調整等が多くなるので、担当課全員で対応する。担当職については検討していく。

(問) トンネル開通後の道の駅・企業誘致・医療圏・通勤圏・村の活性化や人口対策に対する課題の施策については。

村長答弁

●道の駅については、農林業生産物の振興と組合員の拡大、イベント等特色を出し

た運営に協力する。

●企業誘致については、今年度は文化財の調査をする。今後は地権者の合意を得て、村が希望業者への対応をしていく。用地を確保しておくのが当面の課題であると考えている。

●医療圏については、現在、上田地域の病院を中心に運営されている。現在でも松本医療圏への搬送も多くある。今後は、上田広域連合での課題とさせていただく。

●通勤圏等については、中信地域が通勤圏内になり、人口対策にもなる。また、松本地域は魅力ある地域であり、村の広報紙で掲載している。今後も村民に啓発をしていきたい。

2、幼保無償化について

(問) 無償化に対する財源を特定財源化にできないか。

村長答弁

交付税では制度上不明確である。実施財源は、補助金等明確にしていたきたい。

(問) 財源について、国・県の説明は。

保育園長答弁

財源負担については、「国と地方で適切な分担が基本。消費税の増税分を活用し、地

方財源を確保する」としており、詳細の負担割合については今後、国・県の説明後9月議会でも対応していく。

教育長答弁

県の説明では、両施設を利用しても、無償化の対象であるとの回答である。

(問) 村の子どもは特別の理由がない限り村の保育園を利用することを願っている。認可外保育園も無償化の対象とすることは、保育の質の問題や事故率も高いと聞いているが現状は。

教育長答弁

新聞報道でも、「保育の質の確保と安全面の心配はある」と懸案になっている。問題が起きた場合は、この制度に対する批判が起きると考えられる。国は、県等の指導監督の充実を図っている。5年の猶予期間を経過した後に、指導監督基準を満たしていない施設は、無償化の対象から外れることになる。いずれにしろ、教育委員会の基本的な考え方は、全ての子どもが青木の保育園を利用してほしい。

堀内 富治 議員

1、ごみ処理問題について
2、介護施設の利用状況についてごみ処理場建設が待たれる
清浄園

健康寿命延伸に向けた出前講座

1、ごみ処理問題について

(問) ごみ問題については、大変難しい取り組みと課題がある。現在、上田市を中心に、上田地域広域連合を含め、ごみ処理場建設に向け、土地の確保に鋭意努力されていることを承知している。

現在、管内の処理場は、上田市、東御市、丸子地区と、三ヶ所で稼働しているが、施設が老朽化している。

村長答弁

建設地が早く決定するよう、上田市長を先頭に、市民の皆さんと話し合いを続けている。既存の清浄園等の負担も考えると、すぐに着工しても7年かかるので大変なことだ。

(問)

ごみの減量化が、重要なポイントだ。取り組みの状況について。

村長答弁

排出量の80%は、上田市からだ。上田市が中心になって、広域連合も含め減量化を進めており、青木村も効果が出ている。更に、指導・推進をしていきたい。

(問)

最終処分場は、現在室賀地区にあり、まだ余裕はあるようだが。

村長答弁

広域連合の最終処分場は、資源循環型施設建設地以外の市町村に建設することになっている。正式に予定地が決まるまで控えたい。

(問)

長和町と共有のし尿処理施設の稼働と、運営状況について。

村長答弁

長和町のご理解を頂いて建設し、一緒に運営している。現状問題ない。青木村からは、毎日17位運搬されて処理されており、特別問題はない。経費の負担も、計画時より少ない。

(問)

プラスチックごみの処理対応について。

村長答弁

プラスチックごみは、国をあげて一人一人の責任で取り組み、適正に処理していくことだ。

(問)

村内への不法投棄について。

村長答弁

監視体制の浄化による効果も出ており、また、各団体の自主的な活動もあり、「美しい村づくり運動」の効果が出ている。

(問)

ラポートあおき、特別老人ホームは、平成7年にオープンして青木村の皆さん中心に幅広く利用されており、ありがたいことであると思う。日頃の活動について。

村長答弁

ラポートの運営については村として大変お世話になっており、深く感謝したい。幅広く業務の対応をされている。

(問)

従業員の確保ができないようだが。

村長答弁

他の会社の意向も調べ、青木村商工会として、近隣の市町村の範囲で、今働ける従業員の募集に係るチラシの発行をし、期待している。

(問)

青木村も高齢化が進み、施設での介護サービス受給者等々が増えており、待機者もかなり出ている。

住民福祉課長答弁

いろいろと諸課題もあるが対応している。特に配食サービスは、77人で年間2万2660食。また、外出支援件数も増加し、236人で、982件となっている。

今後高齢化の進行に伴い、幅広く対応が求められる。認知症対策も含め真剣に取り組んでいきたい。

2、介護施設の利用状況について

松澤 正登 議員

- 1、村営バスの運行状況と弱者対策について
- 2、安心安全な村づくりについて
- 3、公共施設の維持管理について
- 4、中高年のひきこもりについて



住民の足となっている
村営バス



村の防災拠点の一つ
「中挾防災研修センター」

1、村営バスの運行状況と弱者対策について

(問) 村の公共交通の利用状況はどうか。

村長答弁

高齢化の波の中で、公共交通の大切さが益々増してくることを認識している。4コースあり、一日平均1便当たり利用者は、1・0を下回る便も出ており、全ての路線で減少を続けている状況だ。

(問) 問題点、改善された点。村民からの要望意見に対応がされたか。

総務企画課長答弁

大型10連休があり、その間運休という形をとった。診療所に行くのに不便であったという意見があり、連休の対応はこれからも検討していく。

村長答弁

社会福祉協議会で、有償ボランティアの考え方で実行できないか、4月以来本格的に検討を行っている。課題は、本当に使う人がどのくらいいるのかだ。買い物に行く方々の乗り物がないことも含めて検討していく。

(問) 現在の社会状況から、今後免許証の返納者が増加す

と思うが、事故防止への補助制度の検討は。

村長答弁

予算全体とか、相対効果とか、全体の中で検討していく。

2、安心安全な村づくりについて

(問) 4月から防災危機管理監のポストが新設されたが、目的・仕事は。

村長答弁

青木村の組織も、全体を見渡し俯瞰する組織がないということ、新たな組織を設置した。青木村の全体の災害、緊急時に対する体制やその他の見直しを中心に行っている。

(問) 村でも、より一層の地域防災力の向上と防災拠点の整備が必要と考えるが。

総務企画課長答弁

防災力の向上は、各種機関自治体や民間13団体との防災協定、また、防災危機管理監の設置も防災力強化の取り組みの一つだ。防災拠点としては、中挾防災研修センター、入奈良本コミュニティ防災センター、道の駅ふるさと公園を防災拠点として整備している。

(問) 火災時の情報伝達が実際の現場から離れた場所の放

送がされているが、もう少しわかりやすく伝達できないか。

総務企画課長答弁

消防署では、事前に登録した目印による公共施設が画面上に表示される仕組みになっている。万が一紛らわしい伝達が行われたときは、改めて情報電話、メール等で配信していく。

3、公共施設の維持管理について

(問) 老人福祉センターの広間が使用中止となっている。村民から改築希望の声は。空き施設の利用の考えは。

村長答弁

社会福祉協議会の性質上からも、大災害の対応、ボランティアセンター、人員の収集、収容の場所など、多目的に使用できるようPRしていく。

4、中高年のひきこもりについて

(問) 村の実態と取り組みについて。

住民福祉課長答弁

まず実態の調査で把握しなければという大問題がある。県の精神保健福祉センターの中に「ひきこもり支援センター」がある。住民福祉課の中に相談窓口を設けているので、相談に応じ対応していく。

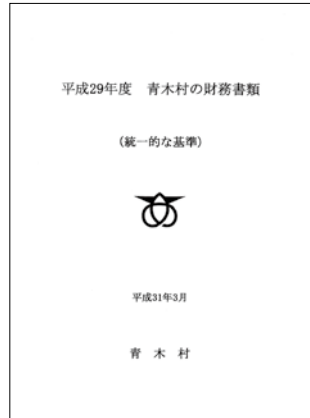


居鶴 貞美 議員

1、各指標等からの青木村について



防災機能を有したふるさと公園あおき



青木村の財政状況

1、各指標等からの青木村について

〔問〕 平成30年度の決算、財務諸表の指標等からの青木村の状況についての考察はどうか。

村長答弁

平成30年度の決算については、5月末が出納閉鎖ということなので、これから分析に入る。当初に基金からの繰入を予定していた事業については、導入をせずに実施できて、2億3400万円余の黒字決算ができそう。健全化判断の各指標等については、例年同様9月議会に示す。

〔問〕 主要財政指数における村の状況と県下の順位はどうか。

総務企画課長答弁

財政力指標は29年度で0.23で、県下77市町村中56位。町村の平均が0.34で、交付税算定上の留保財源が小さく、決して余裕があるとは言えない。経常収支比率は平成29年度は80%、県下で25位であり、平均的な状況といえる。

〔問〕 住民一人当たりの借金についてどうか。

総務企画課長答弁

平成29年度で一人当たり54万8千円。県下の町村の中では4番目に低い数字である。

〔問〕 村債についてどうか。

総務企画課長答弁

実質公債費比率の早期健全化基準は25%、財政再生基準は35%という中で、7%は健全な数字である。水道が5年後に償還のピークを迎える。その後は減少していく見込み。

〔問〕 総合戦略の進捗状況、特異事項についてどうか。

総務企画課長答弁

平成27年12月に策定した第一期の総合戦略は、本年度末までの5ケ年の計画である。地方創生関連の交付金を活用し事業を進めてきた。交付金の合計は3億2663万5千円である。5年間で道の駅を整備、自然エネルギーを活用した村内企業の活性化、タチアカネの普及・PRなどに取り組み、一定の成果があった。

〔問〕 老人福祉問題における財政上の課題はどうか。

住民福祉課長答弁

高齢者の中でボリュウムを占める団塊の世代が後期高齢に入ると、地域の購買力は低下し、村税収入は減少す

る。高齢化に伴う医療・福祉・社会保障等におけるインパクトは相応にあると考えている。

〔問〕 健康づくり事業への取組についてどうか。

住民福祉課長答弁

2月に佐久穂町を視察した。専門職のマンパワーの充実、地域に出て住民に寄り添う健康づくりを実践、地域の医療機関と密に連絡を取り健康づくりを支援する体制等を学んできた。特定健診受診率向上として、節目年齢基本料金無料化の実施、精密検査の必要な方について保健師が訪問し医療機関への受診を進める等の取り組みを考えている。

〔問〕 健康寿命の算出方法と医療費の状況はどうか。

住民福祉課長答弁

平成27年の国からの算出方法が3通りあり、村は介護保険の要介護度データで算出。男性は79歳、女性は80歳である。医療費は平成29年国保一人当たり39万2千円で、県内で高い方から10番目である。人工透析、精神疾患を患っている方が多く、医療費を押しあげている要因と分析している。

坂井 弘議員



- 1、幼児教育・保育の無償化に伴う保護者負担軽減策について
- 2、自衛隊への名簿提供ならびに平和を守る取組みについて
- 3、国道143号青木峠バイパス事業着手に伴う交通安全対策について



幼保無償化でも、
食材料費は
保護者負担



通学路となっている
国道の安全対策を

- 1、幼児教育・保育の無償化に伴う保護者負担軽減策について

(問) 青木村における幼保無償化の対象範囲は。

保育園長答弁

青木村保育園の3～5歳児67名、0～2歳児26名中の5名、上田市幼稚園園児7名、認可外保育施設利用児2名が対象になる。

(問) 120時間以上就労する場合の延長保育料は、無償化の対象になるのではないかな。

保育園長答弁

保育標準時間の園児25名の朝夕3時間は、保育料に含まれることから無償化になる。

(問) 無償化対象外の食材料費の徴収によって、現行よりも負担が重くなる逆転現象が起きることへの対応策は。

保育園長答弁

年収360万円未満の世帯および第3子以降は、減免措置が取られるため逆転現象は起きない。通園送迎費半額補助、行事費保護者負担については、これまでと変わらない。

- 2、自衛隊への名簿提供ならびに平和を守る取組みについて

(問) 本村における自衛隊への名簿提供の実状は。

総務企画課長答弁

18歳に達する学年を対象に、氏名・住所・性別・生年月日を抽出し、紙媒体の名簿を貸与という形で提供している。

(問) 近隣市町村の対応は。

総務企画課長答弁

上田市・東御市・長和町ともに、抽出閲覧になっている。

(問) 紙媒体での提供は住民台帳法の規定を逸脱し、個人情報保護を蔑ろにしている。対象者の許諾を確認すべきだ。今後の対応についても再検討されたい。

村長答弁

課題も多いことなので、今後の情報提供については関係者や相手方と相談してみたい。

- 3、国道143号青木峠バイパス事業着手に伴う交通安全対策について

(問) 保護者の申請によって通学路が定められている。国道を通学路に利用している児童・生徒の数は。

教育長答弁

小学生214名中107名、中学生127名中95名59%が国道を利用している。
(問) 国道にある通学路標識は、1箇所のみだ。保護者からは、

国道の車道と歩道を分離するガードレールを付けてほしいという要望も上がっている。どのように対応するか。

教育長答弁

通学路標識だけでなく、歩道や縁石の整備、ガードレール・ガードパイプの設置等も検討し、対応していきたい。
(問) 歩道整備の完了見通しは。

建設農林課長答弁

早期整備を県に要望している。

村長答弁

用地買収が厳しい状況であることを理解してほしい。

(問) 保育園児等の交通安全対策も、さらに進めてほしい。くつろぎの湯西側の安全対策の進捗状況は。

総務企画課長答弁

関係機関に根気よく要望する。カーブの敷を整理した。カーブミラーも設置予定だ。

(問) 青木峠バイパス建設工事が始まると工事車両も増える。村内通過車両を別ルートに流す国道のバイパス化を考えてほしい。

村長答弁

県がバイパスを造るといふ計画はない。地元の人たちが通る迂回路を上田市とも連携して考えていきたい。



宮入 隆通 議員

2、暮らしやすい公共交通について



次世代の公共交通を検討する時期がきている



更なる子育て支援を

1、子育て支援について

(問) 育児をしている女性が働かなければならない状況にあり、有業率が上昇している。この状況下での子育て支援の課題は。

村長答弁

村・民間組織・働く場所と連携していくことが課題だ。

(問) 出産から8週目までの産褥期のケアについては。

住民福祉課長答弁

昨年の10月から産婦健診・産後ケア事業（東御市の助産院に滞在）・母子相談の拡充を行っている。

(問) 負担の大きな2人目以降の子どもへのケア（一時保育・産前産後保育など）は。

住民福祉課長答弁

村の保健師で対応するので相談してほしい。上の子どもも滞在可能である上田市産院の施設『ゆりかご』も活用してほしい。

(問) 多胎児育児について現在の支援は。

住民福祉課長答弁

特化した制度はない。現在0歳から中学3年まで5組の双子の方がいる。母体にかかる負担も通常より大きい。母子相談の中で対応していきたい。

(問) 育児ヘルパー支援制度を検討してほしい。

住民福祉課長答弁

現在制度はない。検討させてほしい。

(問) 10連休などの長期の休日対応については。

保育園長答弁

10連休は、土曜日の希望保育と5月2日の2日間対応した。日曜日については、保護者の就労状況の調査を集計しているので、参考にして検討していきたい。

(問) 休日保育について、上田市では日曜・祝日も対応している。青木村は土曜日の希望保育のみ。上田市の私立認可保育園で休日保育した場合に、上田市公立保育園との差額補助をお願いしたいが。

村長答弁

行政と家庭の役割分担がある。調査をしているのでニーズを見て議論していきたい。

村長答弁

行政と家庭の役割分担がある。調査をしているのでニーズを見て議論していきたい。

2、暮らしやすい公共交通について

(問) 暮らしやすい公共交通をどう考えるか。

村長答弁

千曲バス青木線を基幹とし、村営バスを支線とする運

行体制だ。運賃低減、貨客混載など活用して利用者を増やし、体制を維持していく。

(問) 高齢者や観光客に対しての公共交通は十分か。

総務企画課長答弁

最低限のサービスはできているが、まだ本数など観光客にとっては十分ではないと認識している。

(問) 他の自治体の事例から学ぶべきものは。

総務企画課長答弁

他の自治体の先進的な取組は承知しており、公共交通会議の中で議論していきたい。ボランティア輸送は社会福祉協議会で検討している。

(問) 相乗りタクシーなど次世代の公共交通について議論する時期だが。

村長答弁

全国で事例があるが、利用が少ないことも多い。見直しの時期にはきている。まずはできることからやりたい。社会情勢の変化を考慮して、新しい時代の青木村らしい公共交通のあり方について議論を深めたい。



子どもたちが大好きなふるさと公園あおき親水公園(水辺ふれあい広場)

金井 とも子 議員

- 1、ふるさと公園あおき親水公園について
- 2、文化会館の使用と施設について
- 3、高齢ドライバーの免許証返納後の生活について

1、ふるさと公園あおき親水公園について

(問) 親水公園(水辺ふれあい広場)は用水路利用のため、除草剤、ごみなどで汚染され体への影響が危惧される。環境保持のための管理や、親水公園の水質検査の実施の有無と結果、さらに、安心安全な水質の井戸水や水道水での通年利用はできないか。

村長答弁

柿の木用水路管理者の協力により実現できたが、粘土質の田を乾かすことができないことで通年利用は無理であることを理解していただきたい。

商工観光移住課長答弁

(株道の駅あおきを指定管理者者として、清掃など環境保持も委託している。

水質検査は、令和元年度も実施。浦野川取入れ口はA、ふれあい広場の流出口でBの結果で、水浴可能な環境基準値である。

井戸水利用は排水、水道水は経費の面で、実現不可である。今後も環境保持に努める。

2、文化会館の使用と施設について

(問) 小学生の通学合宿は、児童の社会力育成のために効

果を上げていることを評価している。今年の通学合宿の状況、通学合宿の効果、成果はいかがか。また、課題等があったか。その間、文化会館の利用が制限されるが、その他の利用者に対しての対処は。

教育長答弁

期間は5月12日～18日の7日間。37名の参加で、男子7名、女子30名。大学生34名。食事お手伝いは1日4名ほど。

成果・効果は、集団のルールにより、協調性・コミュニケーション力・責任感など生きている力がつき、家族の大切さと愛されている存在に気づくことができる。課題は、今年は参加が少なかったことだ。通学合宿は、村の方の協力があって成り立っている。その他の方の利用は、老人センター・体育館・武道館が使用可能。公民館等は各々の使用基準により利用できる。

(問) 文化会館の建設経過年数と、改築の考えは。講堂はスクリーン等が見えにくいので、舞台を高くするかイス席を階段状等にできないか。

教育長答弁

昭和47年に建築し47年経

過で、改築予定はない。見えにくい点は、椅子の並べ方の工夫を。

3、高齢ドライバーの免許証返納後の生活について

(問) 昨今、高齢者の運転事故が多発している。その状況から、免許証を返納される高齢者も増えている。村では、そのような高齢者の方の免許証返納後の生活(買い物・入浴施設・医者等)を援助していく方策はあるか。

セミデマンドバスのデマンド化など、公共交通の見直しの考えはいかが。地区の支え合いだけでなく、有償ボランティアの方法で村が主導していく考えは。

村長答弁

村営バスは、19路線1日当たり運行23本、運賃収入86万円、歳出は2030万6千円。1便当たり1人以下の路線もある。路線上は、状況が許せばどこでも乗降可能だ。臨時便の手配もある。医療機関への福祉外出支援は大樹会に委託し、毎日対応で30年度は村内421回、村外563回実施。デマンド化は検討中。社会全体で支える体制を考える。有償ボランティアは利用が確実にあるか疑問がある。

山本 悟 議員



1、上田広域によるジビエ関連施設整備提案を 2、ため池（砂防・多目的ダム他）の現状と決壊等防災について



豊作は水の確保から(当郷区 中原池)

1、上田広域によるジビエ関連施設整備提案を

環境省は、全国の獣類の生息数として、鹿（含蝦夷鹿）320万頭、猪90万頭と推定。農林業への被害は170億円弱。生息数・食害共減少傾向としている。ジビエ（フランス語で狩猟で得た天然の野性鳥獣の食肉）として、公認の処理施設で、ガイドライン等に基づき衛生的に処理され流通しているものは、捕獲数の1%にも満たないとしている。

ジビエに対する考え方は、野性動物の尊い生命を奪う代わりに肉、内臓、骨、血液まで全ての部位を料理に用い、生命に感謝を捧げようというものだ。古くフランスでは貴族が自領で狩猟し捕獲した高級食材として、高貴で特別な料理と珍重されていた。

（問） 本村に於ける鹿・猪の推定生息数、捕獲数、食肉としての利用の実態は。

村長・建設農林課長答弁

生息数、被害も多だと認識しているが、食肉利用も含め把握していない。猟友会では、昨年鹿を207頭

捕獲したと聞いている。

国・県もジビエに力を入れ始め、県内でも「信州富士見高原ファーム」、長野市の「ジビエ加工センター」等、高い衛生基準と放射能検査、肉の熟成、冷凍施設、捕獲から流通までの履歴をさかのぼれるトレーサビリティも導入している。長野市では、猟友会員を非常勤職員として「鳥獣被害対策実施隊員」に任命している。上田広域、定住自立圏単位ぐらいで施設整備できないか、正副連合長会議等で提案していただきたい。

（問） 前述の施設整備、駆除の組織化等について伺う。

村長答弁

幅広く広域的に解決できるように総合的に対応していく。

2、ため池（砂防・多目的ダム他）の現状と決壊等防災について

昨年の7月の豪雨では、多くのため池が決壊等して人命を含む大きな被害が発生した。その後、農水省は全国のため池の緊急点検を実施。この4月には、農業用ため

池の管理保全法が成立した。内容は、所有者・管理者に県への届け出、適性管理の努力義務、市町村の管理権取得を法制化。また、県は決壊した場合に被害を及ぼす恐れのある池を「特定農業用ため池」に指定する等々。

（問） 村内のため池の名称、貯水量、管理者、築年、種類、特定ため池指定の有無、点検結果。ダムの安全性については。

建設農林課長答弁

村内には①当郷区塩之入池、20万8000㎡・川西土地改良区・昭和14年、②当郷区中原池、8万8000㎡・当郷区・明治以前、③当郷区菅社池、4850㎡・当郷区・明治以前、④村松東区高山池、2140㎡・村松区・明治以前の4池。種類は、谷をせき止めた谷池と呼ばれるものである。4ため池共に「特定農業用ため池」には指定されていない。滝川・白川ダムについても、安全は確認している。



令和元年度町村議会 正副議長研修会

5月28日に東京丸の内「東京国際フォーラム」において、全国町村議会正副議長研修会が「これからの町村議会を考える」をテーマに開催されました。

講演では、山梨学院大学法学部教授の江藤俊昭氏がコーディネートとなり、明治大学政治経済学部教授の牛山久仁彦氏と首都大学環境学部准教授の長野基氏による「町村議会の議員報酬のあり方最終報告」と題した研究発表がなされました。議員のなり手不足の要因として、過去の名誉職型から実働型（専門職型）になってきたこと、定数減による当選ラインの上昇に加え、報酬も要因のひとつであることから、共に公職選挙法に伴う首長給料との比較などの研究報告がありました。議員のあり方については、牛山教授から、議員は二元代表制の下で、首長と競い合う議会の力量を拡大せねばならず、そのた

めには議員報酬や必要予算を確保していく必要があるとの報告がされました。

後半は、町村議会特別表彰を受けた長野県喬木村議会、京都府与謝野町議会、鳥取県若桜町議会から、議会で取り組んでいる事例発表がありました。喬木村からは、「小規模議会のあり方を求めて」と題し、夜間・休日議会改革の取り組み、議員のなり手不足の対策、町村議会のあり方の模索と目指す議会像についての取り組みの発表がありました。

今回の研修では、全国町村議会共通課題の議会議員のなり手不足や、議会運営のあり方などが発表され、青木村議会としても重要な課題の研修でした。

（宮下壽章）

上田地域広域連合 議会臨時会

上田地域広域連合議会臨時会が、6月5日に丸子自治セン

ターに於いて開催されました。今回の臨時会は、青木村議会議員と坂城町議会議員の改選による人事案件と、広域消防の車両購入に関する案件が主でありました。

人事案件では、坂城町の山村町長が副連合長として再任され、青木村選出議員では、常任委員として宮下壽章議員が総務委員会副委員長、金井とも子議員が保健福祉委員として選任されました。坂城町議会からは、小宮山議員と吉川議員が選任されました。

消防車両購入は、上田消防署消防ポンプ自動車と、丸子消防署救助工作車の購入による議案でしたが、何れも承認されました。

（宮下壽章）

青木村及び上田市共有 財産組合議会臨時会

去る5月31日に、令和元年第1回臨時会が開催されました。議題は、青木村議会からの選出議員の交替によるもので、提出された案件は、

- 一、議長の選出
- 二、監査委員の選任

についての2件です。青木村議会から議長に小林和雄氏、監査

委員に居鶴貞美氏が選任されました。議員には、松澤正登氏と沓掛計三氏が新たに議員に選任され、青木村からは4名の議員が就任しております。

青木峠新トンネルのルート発表があり、令和元年度交付金事業として採択（事業化）され、地質調査、環境調査が実施予定となりました。青木峠新トンネルは、青木側3km、松本側1kmの2トンネルと筑北地籍の橋梁部を含む計4・3kmの工区となり、事業費も約150億円を見込む大事業ですが、参加者全員が早期実現を強く願っていることを感じた総会でした。

（宮下壽章）

国道143号 整備促進期成同盟会 令和元年度総会

国道143号整備促進期成同盟会令和元年度総会が、6月4日に松本市のホテルブエナビスタにおいて、国会議員、県議会議員など多数が参加して、開催されました。

議事では、平成30年度事業報告、令和元年度事業計画に続き、松本市の国道19号と上田市の国道18号を結ぶ主要幹線道としての整備促進の要望項目で、

- ①青木峠バイパスの早期建設
- ②松本市会吉工区の早期完成
- ③川西地区く青木村村松地区の歩道整備

他、3項目の要望発表がありました。

今回の期成同盟会総会では、

青木村議会のあり方 研究会

4月26日に第6回研究会が行われ、住民アンケートの内容について話し合いました。また、飯綱町議会視察に向けて、各議員が意見を出し、質問事項をまとめました。

5月23日に第7回研究会が行われ、住民アンケートの内容を決定し、7月に実施、全戸配布することとしました。

議会改革のための飯綱町議会視察は7月12日に実施致しました。

（山本 悟）

青木村議会日誌

5 月

- 7 日 / 第2回議会臨時会
- 14 日 / 青木村商工会通常総会(議長)
- 18 日 / 上小地区森林祭
- 22 日 / 上小消防協会総会(議長)
- 23 日 / 議会全員協議会 議会のあり方研究会(第7回)
- 23 日 / 民生委員推薦会(社会文教委員)
- 25 日 / 第45回上小地区障がい者スポーツ大会(議長)
- 27 日 / 例月監査(監査委員)
- 28 日 / 全国町村議会議長・副議長研修会(東京)(正副議長)
- 29 日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 31 日 / 青木村及び上田市共有財産組合臨時議会(財産組合議員)

6 月

- 3 日 / 県町村議会議長会臨時総会(議長)
- 4 日 / 国道143号整備促進期成同盟会(議長)
- 5 日 / 上田地域広域連合議会臨時会(正副議長)
- 5 日 / 議会運営委員会(議会運営委員)
- 11 日 / 第2回定例議会
- 13 日 / 一般質問
- 14 日 / 審議採決
- 16 日 / 青木村消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会(消防委員)
- 18 日 / 大樹会役員会(議長)
- 19 日 / 小学校音楽会(正副議長、社会文教委員)
- 20 日 / 例月監査(監査委員)

7 月

- 3 日 / 上小地域の安全・安心まちづくり地域大会(議長)
- 4 日 / 農業再生協議会通常総会(正副議長、総務建設産業委員)
- 5 日 / 上田地域広域連合議会管内視察(正副議長)
- 7 日 / 上小消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会(正副議長、消防委員)
- 8 日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 9 日 / 議会広報クリニック(議会報正副委員長)
- 12 日 / 飯綱町議会先進地視察
- 18 日 / 青木・麻績インター新町間県道整備促進期成同盟会(議長、総務建設産業正副委員長)
- 18 日 / 松本・佐久地域高規格道路建設促進期成同盟会総会(副議長)
- 19 日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 22 日 / 議会全員協議会
- 23 日～24 日 / 上田地域広域連合議会行政視察(正副議長)
- 26 日 / 丸子信州新線整備促進期成同盟会総会(正副議長、総務建設産業委員)
- 29 日 / 町村議会議員研修会
- 30 日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 31 日 / 例月監査(監査委員)

8 月 今後の予定

- 3 日 / 夏まつり
- 5 日 / 上田地域広域連合臨時議会(正副議長)
- 7 日 / 総務建設産業委員会(総務建設産業委員)
- 20 日 / 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟長野県連絡会総会
- 23 日 / 町村監査委員研修会(監査委員)

住民の声



沓掛和敏

今年は珍しく梅雨らしい雨の日が続いています。ブドウなど果樹主体で農業を営んでいる身としては、程よく湿り気のあるお天気になつてくれればと無い物ねだりをする毎日です。

農業は気候に大きく左右されますが、その気候が一昔前とは様々な面で変化してきています。20年ほど前なら10月下旬になると毎日のように凍霜害の心配をしていましたが、昨今では11月下旬になつてもその心配すらないことさえあります。温暖化の顕著な例かと思えます。また近年、晴雨寒暖の変化が極端になつてきているのは、皆様も肌で感じるところではないでしょうか。

青木村は年間雨量が少ないため、片降り片照りの傾向が強くてしまつ面もあるかと思いますが、同時にこの地域は昼夜の気温の寒暖差が大きく、果樹をはじめとした高品質な農産物を栽培できるといった強みも持っています。

しばらく前に魚沼産など所謂(いわゆる)一流産地の米をいくつか口にすると機会があり、特に食感など総合的な面では確かに有名どころと頷きもしましたが一方で甘味や旨味といった点では青木の米も劣るものではないとも主観ではありますが感じました。農産物や自然、伝統文化を含め当村には様々な「価値あるもの」がありますが、それらは価値の如何に関わらず近隣のどこにでも存在するものであり、我々自身なかなかその本当の値打ちを実感できずにいるように思えます。地域おこしなどという何かを新しく始めることが歓迎される傾向がありますが、まずは身近にある価値がないと思っている物事が本当にそうなのか、考えてみてはどうでしょうか。

企業の生存率が示すように、通常一つの成功例を出すためにはそれに数倍する試行が必要です。であればその逆に、古いこと新しいこと個人の趣味や起業を問わず、色々な人が色々なことを村の中で始めれば、自然とそこから何かが生まれてくるのではないのでしょうか。あるいは特別な何かができなくても、青木村はもっと面白い場所になるような気がします。日本一住みたい村かどうかに関わらずそんな面白い村に、私は住んでみたいと思います。

編集後記

参院選がスタートした。静かな選挙といわれ、地方選に比べるとそのように感じる人達が多いのかも知れない。人口減少、少子高齢化が進む中で、子どもからお年寄りまで全ての世代にわたる社会保障の構築が望まれる。10月から消費税が10%に引き上げられる。軽減策が暮らし、住宅、自動車等で導入される。しかし、物価の上昇や公共料金の値上げ等生活環境は厳しさを増していく。納税者に負担を強いる一方で、増収分を財源に社会保障の充実も願うところだ。

老後生活の資金が2000万円不足とした金融庁審議会の報告書に対しての政府の対応に疑問符がつくと多くの国民が感じている。その上、3000万円不足ともいわれ、年金制度にも言及している。生涯現役で健康でありたいと思う。健康寿命は村では男性は79歳、女性80歳である。青木村は健康寿命の延伸に条件が整っている。環境の美化を守り、自然の美しさを維持して後世に安心、安全の村を継承していきたいと思う今日この頃である。(7月5日・記) S・I

議会報編集委員会

委員長 坂井 弘
副委員長 宮入 隆通
委員 松澤 正登
金井 とも子
沓掛 計三
居鶴 貞美



この印刷物は、植物性インキおよび再生紙を使用しています。